わ

桂花集 全

Hokkei

3

194

四谷庵竹杖月良撰

狂歌

桂花集

葵岡北溪畫圖

むかし井出の狂歌[illegible]中古より[illegible]
井出の玉川に山振のはなさく宇治[illegible]
そのまゝ[illegible] 狂歌中納言[illegible]
八加茂河の清き流に家をかまへつゝ[illegible]
かゝる[illegible]の狂歌[illegible] 又藤原定家卿[illegible]
[illegible]世をのかれて東山の進士と呼れ[illegible]
[illegible]成る家は西洞院にあつまりて[illegible]
[illegible]入道とて入家の[illegible]と呼[illegible]
[illegible]とりて呼名[illegible]
かくよみて 此世[illegible]の[illegible]の

よしやの里に雅名高きとこゑの名主風なるす
菴に於兼好まる風流雅あるまゝり氏とし
湖江にてそのゆかり源の末より出けり信
の翁の家にこえさしふかく常にゆかりの
あまれ筋よあ花せして来たる上世より流の
花にあくれ秋は玉河筆射影世の風さ
うけ侍てちまきの薩摩まぞくちまゝしなん
ちくれむ家のまゝれなる林の庭あつゝ毎
家にも花くれしくなまめく的の判志恥りしく歌
のおくらへ湯のまきわさんさやゞ其まゝりよ

と成くもの高きく於花のまゝれと此の翁とき
手緑のらうあさき身の物きこえて山く
成きとうわらいゆうとされの業なりかうと
てかまゝひさまひ名さゝりと歌俳名園
のあまし湖濤園のぬいとおれしこえき
秋の田のもとも名にそのりしてい手で
何うしの側くわりのつゝと箴さひあや
ふもとに雅言葉とるまりりとれとくとのえて
筆にもちとる此なひふきい清ま房さまき
名手のこの立さゆくそ撰藻の升のふうく

いにしへの歌をきゝわけたる人もとおもふらくおもその
蕊子きしきこゑのちらぬらく天雲の遠
くきこえぬらしして都も鄙ものこらぬ隈なく
き月の歌をしもとも法とすて作者のうたゝ
秋ならぬ歌をいつしれか星只まゆらく言葉の
むかし秋の世の草葉におもふ露よりもさき
の歌をしいふらに月の影は法かや
なきかしもなく名月のきよくさやかく
えらくきそを歌きの名におふ桂の集
となつるそよのなしうきそもあらむ和のき

老の間も猶あらせき能ならうの道に公
教ゑみて常にいふ後のことをそあれを
なのしふて世の中のへ誌をえせむとこれか
筋をあり忘れまうれそ以れか記
とふすいひ出ひまのれひさうれき常それ
旅れとのえたまうこら何ん後ぞや以れるを
かゆとなを柴ふ子の教つらは歌らんゝとそて
教るさつきと優めよしやむ出のしあえし
常それ鳴の世帝の心ゝ真摘えてあさき
濡ぬへらゝらうしして教歌つのれよの

よしなしことを筆にまかせてかく
[illegible]

前揚名判者松園源園雄

秋の月はかきりなくめてたきし
ことゝこれや春乃花紅葉あ
のうちよりはへるもいと也この
まさる書乃かゝみたえかしこき
うちうちをかけのまことさか月
あるはの月すゝる新ものよ
あるえありて月の時とも花と
めつらすらん花の月よしも也ゑ

ある夜花見のあかし月の影
いはしきむさしの野花乃
さとよりえらみあつめし此ふくのたし
のきは桂のかをりのくもるよし
すゞろかくえ集しつるとて

錦峡亭主
湖鯉鮒

桂花集

春月

四谷庵撰

十二冬
雲とゐし若葉にかゝりて浅草山よりて小夜ふくるの夜の月　湖舟亭元女

西へ入る表の町へ出るにも唐衣かたくおぼろ夜の月　松風臆長丸

うちつゞく花の盛りに大空の月も笠をはなさゞりけり　遊々舎春駒

海棠の花ゆりおこす風なきてもおぼろねむるその夜の月　雲窓庵文丸

待人をまた新ら月や宵ひらん縁の淀みねるむその夜　南窓悦山

在江戸
芳野の浦なる八重てその夜の月の桂も花枝さす新　千柵亭

十六
眠る花まだねぶさくは月もうすかすの夜まさりけり　盡吾樓

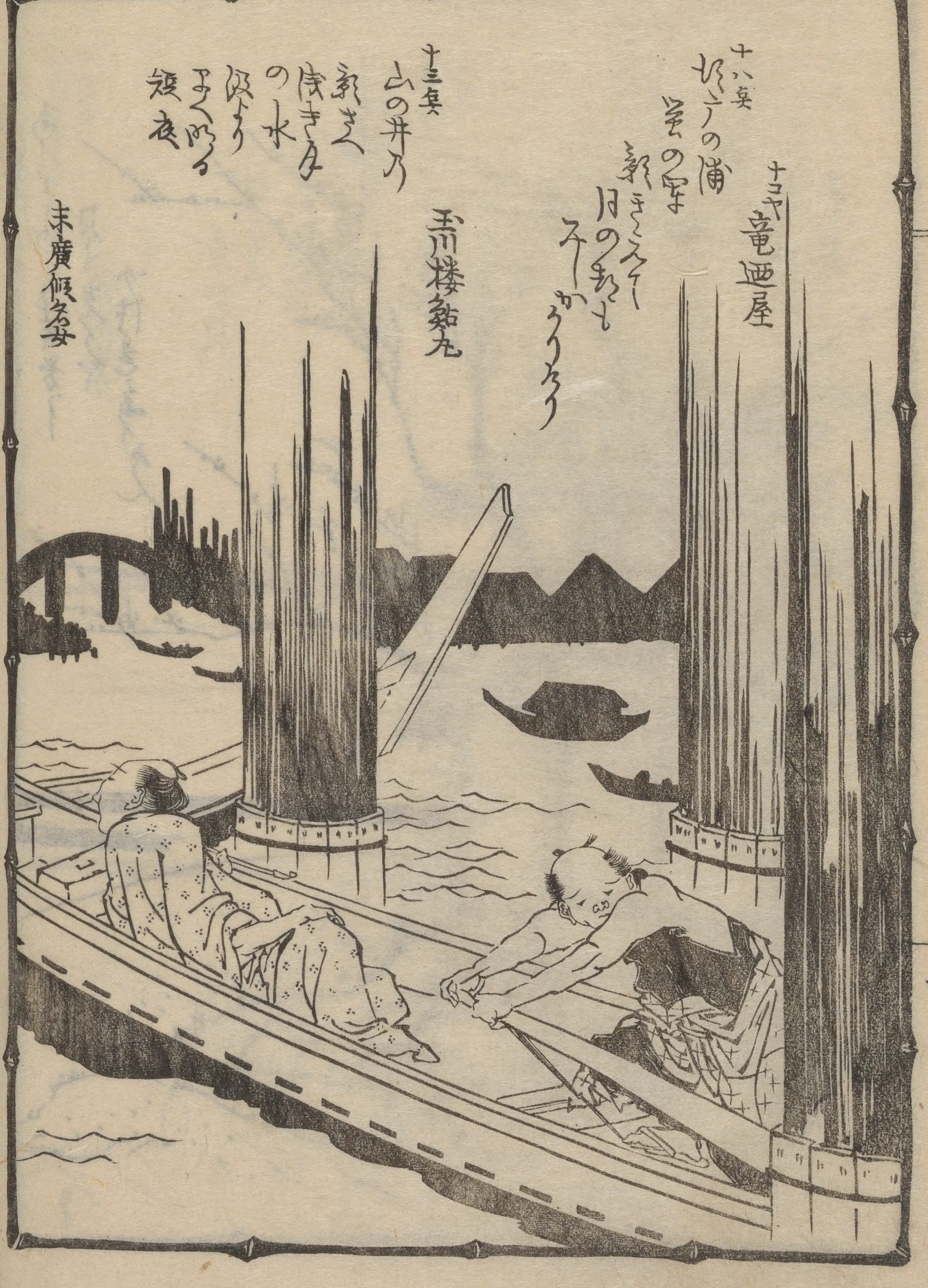
海苔簾あらかくてことし十六夜ほどよく白むるのよの月　福禄亭

信八幡
咲花の山のはなさの夕月ハ霞よそけれさすにそれかれ　魚代人

上毛高枝
雲くに思はぬ嫁しその月まれ花に風やかくさん　青葉亭千枝

十三夜
夜の月

十五夜
十五夜
末廣假名女
夜の月
十五夜



十八矣
ナコヤ竜迺屋
十三矣
玉川楼鮎丸

十三矣
千芳
十三矣
小夜衣
常優居高人
十三矣

仙ノ
柳韓林千條
十五夜
云の葉乃玉やひろはんいせの海
清き渚の月を見る夜ハ

川コエ
極楽園喜寿
十五夜
妹は例の國乃宝や雪花の
こよひの月乃清談

三

川コエ
清香舎梅ち
十三夜
八重立てし家の月見
取り乱れたれも根の
あるまかそや

玉川楼綿丸
十三夜
菊咲や伏見も月の
妹の長ハちりも埋し
つきしの妻

東雲亭玉兎
十三夜
人なりと戸さしし女の
つまへハ是も月見をし
出し 内家

長忍亭基頼
十三夜
月うけの今を惜み残そくに
見せよ立し まつの浦松

四

ミノカサマワ 桃太樓

十三、地もつくね月のこゝろに似合しや
白うき雲の見ごとにも

湖濤園

十三、菅笠の峯の月ころ秋の夜は
張るもされし
雲のかけもなし

花咲菴

十三、わらひの夜は者つまりて若雪も
さらに更けり月の哀れ

仝

十三、札をとつて残山風に
かくやむら時雨
すわしね
月の小笠は

繁亭未長

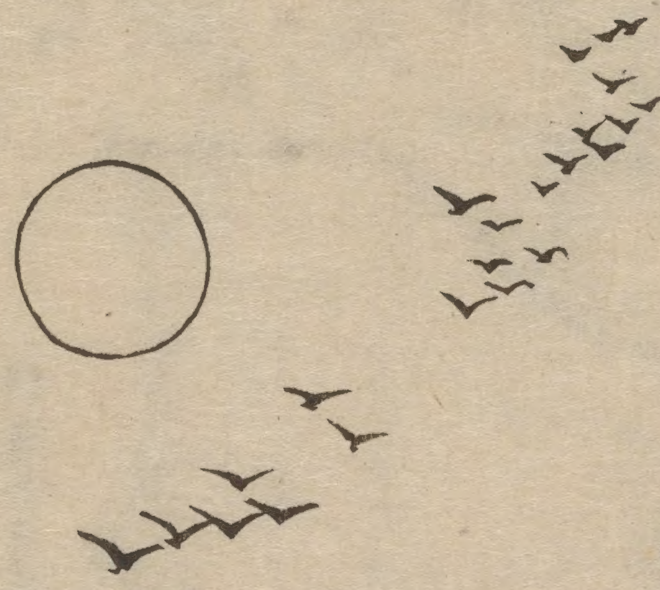
十三、すゝれ卅さきし
またりさやけくて
一あわてさね
月のひさし哉

圓月樓仲秋

十九、放さゝ余するの月夜は
おさくてもよきれ蕎絵の
春のさかつき

陽居亭陽

十三、弘安の庭にこゝそていろか
白露に月の都を
見はりもや



静窓桂

十三、かくらんとふれは
竿の月のま
折もそしき
風情なまり

青山亭常吉

十三、海原や布かし
くけの
あやふくて
風にゆられ
月のうきしま

前場名判者

十三、いみしくは
芽を出さん
照月の都と
なりしいさしの糸

五車亭

十三、川風にうてれよ
岩のうき舟は
水の上ゆく
月のむらくも

猿遊閣仲貫
十三、はなかしおきなし
くまる舟人の
すゝみかし
ふる家かの月
紀長丸
十八、きてつれ山
読りて行
人根の
すゝき柄まの
月のか女子
玉光舎石正
十三、冬の夜の月の
ひのすゝきれ
波の玉ちる
をしの羽
雑
釣月亭浪寄
十三、ほとあくし月のしつれも
信亭の高焼きや月なそかゝる人
北溪筆

湖濤園
十三、あく梁の汲するとき
底ちゝ山ゝかゝれ出る
冬のよの月
梅明
十三、氷見の
きるしきりの
舟の夜ハ
月の水を
つかあらん

八、秋の夜のあかしし影よくうつれハ千まてますよまさ鏡月かも　湖城軒有安

井手の里さくら山吹の花よりもくもれともなきおほろよの月　カマクラ　乱橋亭高浪

えて声もちらるをあとふかさ山吹の霞につつむおほろの月　冨廼屋員守

ちりまるさまの夜すからに花の枝よわつれるおほろよの月　イセカトリ　福月窓内安

咲ナるの汲てふ声や声のかんいさみるまのよの月　福濤斉保有利

すみた川柳もうつる松の風ふもりつる今戸のおほろよの月　田　東海庵福成

一すちの霞を汲ところも水色は月のさかつき　仝　松濤斉調意

花の香も柳の糸つり玉とおかし鉄とかすしまのよの月　濤鳴庵澤利

笠もし月もそにの境とて花のちも花見てり　竹の門千代蔭

竹の影うつる清さも屏風に春しこもる鉄床の月　竹林亭七賢

さくら来て今ハ雲も花のうち月さへ空をうつる鉄夜　竹盛園秋良

春の夜の月のかくの影うつれハむすひわかく千歳柳の髪　竹鶯園哥良

山吹のワかついまやかくる月の後のつくりもみえる夜　ミノ大田　千代廼屋春雄

八、花みえてつくるよかすみくるあかりひよ防む月影　ミウラ　永嶋春風

古今山の霞の衣に包つる花の上ゆく月まそありける　柳月窓細女

曰ふの霞の衣に月のあらはれてにしむまその春の衣　在秋田　玉塵亭守文

水のまよわめく影ハ仙人の姿しかすみのきぬこしの月　五老峯隠栖

文科や田毎の月ハ苗代のそとより春の種おろしせり　静窓桂

咲つくし峯の桜の雲まてハおほろに入ゆる春のよの月　玉三芽　鈴木茂時

さくらの雲すそ申しとまるよの月や霞の袖おほかし人　オシ　龍廼門玉安

梅の身としる雨のこほれて後やほまて忘れまのよの月　春日亭豊住

そらもうてえ霞の春やにほ写し徒しみのまのよの月　春仙堂柴舩

えて光とあうをいとつつさ山吹の霞につつむおほろの月　冨廼屋員守

まその夜の陽わる影ハ月の中の桂やみえかきよとーらん　檜生薫正美

よしの山月の詠も花の香にあひやしぬらんむさしの夜 湖綾園糸守

むさし野ハ大江戸をふの竹のはしる輝ふ月もうつりけり 篠園春根

モモ
その夜の月も霞の朧角力かきの最中にいさてやしくき 蟆菴泥住

チバ
咲ぬるを眺るんさきの市まで笠もまとるや月のうつし男 濤聲園小松

ふりすり網も霞の衣の襟かけて袖すゝ浦のその世の月 山隣亭秋樹

モモ
春の夜は霞て三輪の山の端を月もおそく出る手まその衣 葎庵千峯

アバシ
むさし野のあいさりかハ霞て月の光もさびハ逃ぞけり 壷丈楼一岱

郡山
わりやの文つゝらん紫のかすみにこめる石山の月 淺調庵真似保

アキタ
山の端にかゝる霞の衣手に笠きていづる月のうつし男 蔓川舎寿住

春わすれハ雲のきへ霞むその夜のおぼろゝ山の端の月 車音亭大井

佐保姫もものひもへ解かねる衣の縫ひさい出る月のうつし男 無事庵逸翁

春の夜のみちのけや宇治に流れるん帰りかゝる月のおぼろ 饅頭庵腰高

アキタ
春の月かすみの衣ふところよりおあの山こえて眠るやこしたつり 三壷亭長彦

むさし野のゆかりいろの紫の霞かくれの春の夜の月 春風柳子

若竹のはしる井戸ともまだ机の煙にかすむ春の夜の月 南木亭千栄多

水鳥の月の影うつす春の夜ハ柳の風もおぼろにそきく 草木亭茂女

志賀の山かゝる霞の長きしを手ぐるにふれてわたる月かけ 勘定外也

春の夜の汐みち来れハ海うちき波の鼓よ打なぐ月 湖月堂清光

夏之月

十二家

三ウラ
夕すゞみいとくんでもうきこゝや月のかつらの花のなかめに 永嶋春凪

松風にくるゝもちえていつのまにかすゝしき月を吹上の浜 洋々亭水元

枝ぶりき松の林のすゞしさに秋よりやかりと見く月かけ 呼月楼三宜

蓮葉の生ける池にハさし月の影も滴りに玉ね涼しさ 青山亭常吉

十一
雲の峯きえしまぎる日ぐれに照る月の急の足の短夜 月下亭

そゝきして風も川瀬も月影のうちこそす夕ア涼しも
仙フ　柳絲亭唐琴

さゝわきて涼しさみの入かゝる今なりけり夜のよの月
青我窓月義

たくもやめる煙しゆるもの身に涼しくやゝる夜のよの月
アシ　湖邉亭花守

手をとりくみうたに明て短冊の手にあふべし夜の夜の月
湖州園

ふたゝねふまし秋夜の月影は扇子のそし夕見の花
下毛　黄白舎為持

影こそはましらうかれ夜は秋月の推もみ秋さすらん
下サ阪井　綴螢亭

まちかねし時月のみこゑもやられ風の涼しさ
芳入亭菊守

果をとりいくる山の高寺月の影をもかくひ影なる
小餘綾礒女

涼しさは世の夢もなき隅川に月の兎乃耳洗ふ影
アシ　集督庵行窓

舟のふのちりしく影のひかりすゞ影おきかはりて夜のよの月
冬凡園逸成

ちりかれきてる夢の風ふてきへとにやすゝ夜のよの月
雄月堂連堅

とりくなき浅茅舟の勢ひきく短き夜の秋の身
竹馬友業

風よりも涼しき月はおくれてやあつさうつ逆で来し夜の夜
湖漣堂數音

夕つくる露よりそけばよか女うなふにあつる櫛ろの月
アシ　湖萍亭重雄

涼しさの影をとすれば新枕うけの涼しくる夜のよの月
武ヱシ亭　秋深亭歌多守

池の面に影さん月の玉のをもゆしく斗にみえて涼しも
アキタ　友垣芳見

緒乃田の池ふ影さへやとゞもみ色涼し秋夜の夜の月
武走方ヤ　秋逦行方

紅葉と池の緋鯉をみるまでに涼し秋夜の秋のたのみ月
ウツノミヤ　眞琴

まつる川涼しき月の来るはなりやあの夏も影
蓬莱亀成

風のみに手をとりたる涼しさは月もうちその所なかる
春駒

手の波あつかふうらの海原に月のすゞしさおもあつまりぬ
アシ　以呂波道人

照月の清ふ秋の主あるうつるかと見る夕へ涼しさ
川サキ　哥月堂櫻籬

泳かる人はは肌どりれさせて手の衣わく月の涼しさ
仝　春芳亭本名

ひるのうちはなつきとさうしまちかけよ夜の月の影みよ
アカ　壺井亭元澄

夏の夜の月の影にも抜てくりひろけもよし時ならぬ雲の峯　アシカヾ 茅街園守氏

夕立のそれさる跡に雲の袖まくりて出る月のすゞしさ　タテ林 東屋白赤

すゞしさと詠る庭の芦のまがきのよるそ月の影さけ　アシカヾ 三丈亭糸浦

うつく秋の夏もむすぶかとしる夜に月のゆくやすゞしきかな　壽月亭福晴

すゞしさは旅に似たれのうちそりてあくやすゞしき月の下風　元 女

夜ふかつ夏ふしながれは真砂地に白かされたる月かけの影　方三 一調子高樹

五月雨のそれて又すむ月かけはしつも盤の中ってさすくる　竹春居茂葉

夏の夜の霧すてつ月と詠てば身にかゝると覚むすゞしさ　テウシ 草薮園糸白

すゞしの雲の足すてつかりしう七里ヶ浜の旅衣の月　萬代舎廣住

すゞしさや雲のたちわき持て月影おとく夏の川面　湖面堂成兼

あつしとて月もきらみに山高くなるれて雲の孔やぬきく人　青葉亭琴葉

よに出ていふしちそうに似たる夏の夜の月とは待もたすまえそうる　紀、六合菴光一

夏さりておもしろかれわたる夏のよの空よりきよき月のさやけし　雲石 自樂山人

岩清水のむすびけるる影さえて明渡る夏の月のかけ　百敷庵哥橋

夏の夜のうち汁りぬ月の出る夜毎につくても秋情けり　武こさ 青柳園千種

横雲のきれとを出る月影にすゞしかせわたる天のかし立　八王子 福柱園布衣

手枕よむ宮に落りて夏の夜のかちゃ月を招くひらく風　宇協 便露堂菊人

掛たる月のひかりしも光まつてことりにても晴る涼しさ　窓史丸

露とまるせいなく影しきて涼しくうつる夏の夜の月　蝶形亭黒金

手もきれ又むひてはあひらつはりし月やきらゝてくる　馬廉人

このくと詠る月の影解にすむ床几の夢もまくれ　腰高

涼しくもさしすする月のみちや波のうつゆく舟　唐松 湖艸園

まさか女ろ植し田の面に笠ひらくもれして夏の夜の月　鵲巣居光朶

玉川やさしさらつるきて夏にさしてもたゝれ夏の夜の舟　アキタ 長沢庵廣丸

水壺の氷嚢にまぜて夏の夜ハ月のかげをひさくまもしさ　川コエ 橋香亭守雄

月の影うつ庭にて見れハおしろいも真白にうつりて涼しき夏の夜　松代 松操亭美奈女

夏の夜の風を待えて月の舟涼しさうかく影をまもしき　無事庵逸翁

夏山に照射するてふかすみもなれハ松のこずゑに弓張の月　紫田舎秋芳

秋之月

十二、ちゞならぬ名や世となりぬらん月のかつらのあきの咲りくス　夕顔亭元成

月のりる空の中なるきりくす塩のもえハかり行も赤しら　湖濤園

山住ハきく方の月や光やらん世のちりまもあらてさやかき　オシ 神垣守吉

雲の袖おもかくハいとくおもかけも見ゆくき月のうつる嶺の峯　湖水亭清臭

まづるらし琵琶もさすかくまて冴て月のさえて夜や明すらん　湖橋園至宝

松浦の松もよし野の桜木も秋ハなつの月のしさくき　文金舎蔵住

夜もすがら月にうつして君が代に梅をそえてし花あるそとし　松梅亭商人

照る月の雲まハ風のよそかりてまつへて気ハおきわね松ろくス　鶯蛙園哥雄

久方の清美のしらせうつすきかくもさやかき月のうつる哉　イハト 文毫舎魚丸

さしわたす雲まに光る月影ハうつろふ空やくもり火の影　イセツ 神風園

山形をかえる枕も新てかれや月にうかれてねさめかち方ハ　仝 森生亭万津雄

月の雲清の朝ハ光ひかりて涙の如くのまろう人もなり　オゴシバタ 鏡磨安

浪かく響こそ見ゆ海原の岩ヶ崎を登る月の影かり女子　川コエ 千池堂雀住

ちくさに人のいはく玉兎なるのかげをそしるさやけさ　南陀楼哥成

年ふりて立かへりても田子の浦波ありに松も月のかげ女八　甲ミノ 竹薮館虎葉

三輪の山杉のこずゑにさし光る月にかくる里の残の女　湖川楼堰

山松に伐採してもね川の月に二ツ新たとかわらん　三　宜

秋の夜を教ふる妹が庭の赤きの月の光中をてえる　薄雪堂春道

かつらの木ハきらくなりても照月の新たにまつの松の尾の末　川コエ 福巣園雀守

てるひの梓なすそやてる月よ今の夜ハうけすもあしかりなん　陽居亭陽

むさし野を支へしくして秋の月人の心をまねくほそすゝき　福輪亭津葉成

高ら山出湯のかま旅の夜ハいく葉かゝる月をにきわし人　キフ　安南樓岡住

高世山淀ゆめしく兒まし月の少女のさえ登る天の雲　玉絲堂蟻道

新うきてゆれハ池の桂まて月よりいして扨いりとえ中　千里亭早道

照月の桂の花のなかりせハ山里外のちるをとらまし　イセワ　森榮亭冨丸

秋せし云月の影もいろ斗しらてわくけつるなるらん　サノ　六條園絲彦

月の中にすくしせハ誰ても人のこゝろの葉なりけり

ナし　早道

見了あしくなるもまそぬ詠か名のみ御しぬ松の月　風月舎友俊

之保の浦松ハとも何れ久方の雲の衣よ月にかゝるとも　東樹園玉世

見了忍しくちらしら月よみくせの幾さへ白くうつるさやけき　鈞好

秀隣さ咲武世の風のとゝまりあらくも月の影ハ落ちり　湖濤園

月のつ山ハ述して名作寿するみんるあるえむさしのへえり　カサマツ　福壽窟眞倉

てる月の桂ひく声よけおきれてうつやにきろ松し多の松　柳芳園一枝

落しる松葉のつみしさる手して月ゑる影なんといりし少女子　礒女

いさこより穿さひの手つの鳥飛るれさく形なりそて月の影　加茂船

くもなしく月のそて藤まくいく汝とそえぬ秋の景とたりし　元成

冬中しそて気ゑやそゆる世ろへ伏世の浦の月の影の夜　アシ　湖静園浪吉

むしろ雲のおかうりやしある傍しる月ろけもる秋のきさく山　オミ　一心子芳樹

村雨しハ蝉の影風よりふれて月の清の影しくまたし　五老峯隠栖

秋の野の尾花の浪よ松落くと玉露くえそうゑのさや見さ　竹流軒清良

西よおくへゆきひの松よ新さしてまさしる月と光しわつる　茂葉

風のよに女ふ雲くとも心かくりけし秀麗の峯の月のまるよ　東西屋弓彦

秀きて人の申さらの勝のあゝしる外月のつめてもちかつてん　采汁樓外守

きの袖まくれもひつじ姝の夜に月のおもそいつく 綿
湖色亭涤成

けさもつの新しくそけの葉の夜の月
巴扇堂

入り人もそれ秋の月影も清まつく山ハ南のむさしせ
柳生
楠庭子近圀

月ほる乎も浜も月影をワけて二見の浦のあさくさ
上毛一ノ谷
三栗仲女

き乃ゝしつそ入月の影清きてとくあそしのその煙火
青メ
丹三樓綾織

筏士の棹にうさきをちらすていろそめてきらき水の上の月
本乃八丁目
淺陽庵

山の端よ出てさやかき月影に心をかゝる雲もてき
仝
雪風流里

名にしおふいわす一夜ハ詠つえそ古の月よ月よしの里
下サ笹台
百艸園道俊

をユテの一きち悪き二つハ方ゆく月の影のかそふち
大下毛
檜原亭村人

見よし来の花こそ乃あれ桜木の枝も一夜の月のむしろそ
下サ佐倉
尋蹤亭

西へ出る入宮のほる午の光も影後ふつき秋のよの月
秋山
獨樂亭無盃

いにしへの夜ハ月よりまさりたる芝の湖てしも秋の夜
川コエ
清栄舎松守

松しくて梯よらくろきね松の枝をしらぬ月のかけの夜
新樹園菓守

むしろそくの波風もなくうそきまくて月の光いしつかなりけり
六花園

姝の夜の月の後の〳〵掉棹涙ほも月すりゆうさやかさ
湖川樓堰

神もしれもわもくてに方宴て神より神くうくう月々け
猿遊閣仲貫

さゝらかする月よりかれて小鳥を栄ひきもそつ手寄らうを
南盛子春岑

ちりかで花も咲けれもれ姝を古月の乃ての花の庵の枝
黄鳥庵梅好

見て花となりて入月よ作向ハ影し波のしワそよりまこ
下毛小金
百中庵匙人

姝を方庭しきよる松乃枝ハ新さえ月の影の下 杉
仝
通詠亭歌樂

ワけ出る秋のよしかきの影一つなき月のさやけさ
芦邊庵田鶴

んなや月の笑顔へさし出す佐山さらの村雲のなし
朱花溪垣守

さやうかう影よ見ワけ不二つるもちよ二つや月の名ゆて
川コエ
福翠樓枝茂

竹の言ひの空への露にうつて影らし月もろともむ玉川
青巖菴照影

月　照

ひとつなる月の光をいくつにもわけていそく萩の上の露　三千世庵桃加寿

むら雲の袖より影のさし出て袂のうちの月のさやけさ　湖楽亭鈎好

浦島か箱のふた夜とあかき夜半ハあけてくやしき今宵の影　江刈ノ　龍杖園梅保

照月を雲かく隠る秋の夜ハ星もあはれのこゝちこそすれ　信州松本　藤　花子

鉢の表をうつさくりせハ今宵の比うつまはるる影をうつしや　全　賤廼屋千門

さやけさは梅にも絶えぬこれなり月に加茂の様をまくとそ　全　科廼屋真猿

うそ吹て風も今宵の雪拂へ月にまくらけの一曲の虎　ユフキ　志賀廼屋井緑

住吉の松よなからそハかくろひて月の影さへちきのうちそき　キメ　扇松垣千風

秋の夜の月のあかのあはれいろハらし衣をるもおよハさ袖なり　柳葉子糸長

旅ゆく人の袖にもてる月のおもかけよ私のふるくも　カサマワ　松壽軒翠

照月の桂の光のそひて星のかけもえさするなり　仙フ　柳谷亭千年

てる月の桂の花のさかりには夜をそやりしと峯のえださき

てる月をあかね瀬くはきの表ハひくくもたかれとおもひくたし山　ミウラ　不震亭山延

戸湊の夜もつ松の梢まもさされてさやけき不二山の月　オシ　湖木亭枝吉

秋の夜ハつきまとそへて松虫や音し女の琴も聞る月かけ　全　湖渡庵道吉

月をみる目も秋にかりともみやめておもハさつね松虫のこゑ　南窓悦山

むさしのゝ尾花ハ不二の振袖か今手にうつる月の白露　甲市川　雪車早雄

咲つくす千草も風に吹そめて早き夜えてね月のさやけさ　竹流軒清良

月影ハまさて年ワかよひゆく子供としも見えかくれして　ホ三芳　松廼屋千代住

妹の夜の今宵もかかる萬雲をそね風よふつ千一人をよそして　竹枝堂真垣

今宵の夜の月もたえし一すしの尾花ハ雲の葉拂ひうも　豊廼屋綿芳

秋田のそし出る夕日に影まてていとさやけき不二山の月　武大沢　秋浪苐浮安

そしかして風ハ砂ねに秋の夜のまて見えさせる月の宮　六律蓁琴雄

源氏宮さしいる秋の月影をとりしめる逢生の君　一陽亭春見

人のする形とはなしく照月の桂つくこむ淀川のつゝね　川サキ 壷妾樓花豊

白雪ハいつかくるとて鉢の夜の月のかつらの影えひくもれ　菅廼屋沼成

水んある月の夜ハワく唐へ亀んあるつもりまろかり　タテハヤシ 三栗園守仲

爪のかよう雪の夜の袖のことうら拂ひふき月の雪の衣　越後 百行亭治丸

宝てふ玉をえしうらやとり雪の波アをこえ行月新　タテハヤシ 守 高

西へ入るとやいふらん鉢を方祈る月のこゝろこそ大はらに月新　川コエ 福景園濱村

岩の名の清ナや乃しの海を羅あうかねとらふ月影　逸 翁

こゑやきの鉢まるとえれハ照月の影へ光る鉢のちつる客　幸亭喜樽

よしの山ロタりとりそ咲かかる月のかつらの花の蒼ハ　梅樹園花芳

挑灯の弓も紫にそめてちよ代の月の千五夜　太鼎坊壽老丸

むしまのまれて月名る鉢しさハんらきくの亀の尾の山　稲毛庵真猿

ふく風よ尾花の波や立ぬらん月のかゝれよるうきぬめく　栗解亭藤蔓

海原をうかれ出てる月かけもひかるさんこの鉢の十五夜　湖亀園甲良

そこ清き新波板の月か舟ハよしあしまてもワくる鉢の表　オク 花基頼

我袖にやどるとみれハむさしの尾花か中よいでし月かも　ナコヤ 秀 器

黒木とハ里よひさおそ家路へハ月をかしらよさく大原女　對松園堅持

帆ナあしの陣待ひわき帆片帆波をそしる八月の光か　金錠樓綢丸

よし波ハ清く澄まく夜か中よ明るハきえん月の白雪　松シロ 六絃園男依

文月て境より月のかるむしといのかくよハ坂ちの侍　クハナ 豊葉子稲吉

こよしの川らも月の新らきて芸のかつくとあつ年笊士　香 守

ねうる子を月の亀ハ同あてうてそらもいつる秋のもろしさ　三又改 秋月亭亀住

むしらその足をはらひて秋ちかきひとえぬる今日の新　大橋亭満復

詩のかいふさて月見る美人ハ玄宗のまてしさう年秋の夜　唐金義法師

さえワる月のたつしよ秋の夜もすの文よる天のちし立　數鳴庵歌和

世のうさをわするゝ月のさやけさハくまなきものもなし　手琴常留

きもきし風まつ月の出ぬまハをのかこゝろてあかるさや　ヨリ井 亀鶴亭長喜

時ならぬ不二のみゆきハ照月の桂のはなの雪とこそしれ　仝 生物亭安喜

てりわたる月のおもて風さへなくてやの松のかけそのまゝてみる　千ト上 花月斎馬鹿人

ちりもなき秋をなきあらしさかゆる夜の月のひかりもすゝしや哉　上林亭直喜

須戸の浦まつむ月かけを汲とる翠ハくらしの茶碗やはし　カサマツ 隅田迺屋都鳥

老の身もわすれていまにすみ夜の玉のあかりをめつる月かけ　大木戸駒彦

あきの新やしきて小松やつゆにやん月のひかりの花見なりけり　カサマツ 桃太楼

照わたる月のおもしろやらん天の戸明の遅き秋の夜　仁石 新田房記

幸湊の松のこゝに志賀の里月のひかりハをちかへらん　文清舎沖澄

なかきこゆる鳴戸ハなかれとさま抜の隔まてとゝむる月のさやけさ　白山人

影うつる松のまつ笠持した日アけのくもる月のかゝ女子　梅好

むさしの月の中ゆくむさし野のみちの国まて見ゆるさやけさ　サノ 三五亭相住

入られみそうかりしおとすきの中の松や月のあかり　千尋濱住

夜られてさやけき月に新よつる松にかさゝや横ちなしくらん　沖澄

あきの糸の勝のほとりの月影を汁のめしまてみる秋の夜　吾不軒菊成

神風やいせの浜辺ハともすれてくきものなき月見しにけり　甲こフ 鶯宿亭梅葉

年々に老る人のたのしみ家世を見月のかゝ女子　史左

足川の山のあらしに色とりて葉のちる月をきくめる　車音亭大井

秋のけ月のかたち見え色の糸もてしらす短冊のうへ　摂シタ 寶箋笠

遠まての影さき沖ニ新しみる月に旅ねの夢化なりにけん　イセワ 萩廼舎音信

松風の吹くも木の葉の月ハ浪山何そのてらこそあれ　ナコヤ 竜弓園弘的

さやかなる色に流るゝ松たしまこハてその月の影　相生 楠葉子濱風

性たまくよしの川にうつる月も遠のし　下サ 淺波庵

ちりすくと風のもつし掃つるかゝ方の月のなつくるらん
下サ 東扶桑

よる借らは宗をとられて此月の訪すゝるか戻の川つら
仙フ 可然亭安臣

てる月の雪やつもりし投もの早の林もけむさやけさ
仝 錦深亭漆摘

かれくろふ彼の実なの板ひさし月のもる夜もねられさりけり
左ハラ 米園泰卿

焼餅の下西か秋の月かけハ戸の森枝もとてきえてかくるゝ
川サキ 袖農屋綾雄

てる月の下よりか代ゆくみちの雲々桂のかけやさすらん
稲蒼園秀雄

雲にくるゝ葉はなくも妹の衣の月に影なす桜木の枝
春簾子一興

汝戸のうし旅の旅さとりの月新に筆の古かよ二十日路し多山
和竹亭素直

さしのぼる林の月をまてゐてはこゝろの猶そ宵にかへりゆく
自在庵垢嬢

夏見て之詠れハ妹のよの月てハものかくさなし
和月堂影吉

筆立の孔 荷の玉く見ゆる氷机の硯にさしいつる月
巳扇堂

たつみ出る月にハ新戸出風待まつしてはらし短冊のてせ
青楼園多長

地とる雲もはされて見る月のかけも千歳の底にきこゆめり
喜久丸

きわさ寺妹のよすかし詠れハいとくさやけき月のさし色
中野庵本亀

新枕する月の小笠ハ旅人の目にうつしみて戸の一むれ
髭面入道

風のしらく尾花の露の玉すゝれ猿まてワたる月の丸窓
玉川 泥住

ふ二かねも筑波の山もかよひし此月に名をきくむさしの原
赤アサキ 風柳亭吉女

わすれ名のくまなき月の秋さして法のいさくむしさむく
至宝

釈迦の札雨ハとまれ詠すハ月も妻のいし山の月
湖山亭石持

新よりも人をとめて雲に見えんさの影や月の夜白さ
湖郷亭内住

和泉川秋の夕アハわか身の月もさりしハきえのうるらん
弁守

てらすけの中の名ハあらはる月の雪もりてつくりさりけん
千霞亭宝山

すゝろぐ寝生川のいろくつの数さへ見ゆる秋のよの月
勝雲亭露持

あまされて宗とならこゝち高くハ月傘にて来るらん
鶯僊居高人

秋ゝ照そふ月のよふ楓のうけや冬のはつしも　真琴

外囲の光を取てもちふかねと月の色ハ未黒　一松子若樹

雲の如き白うてらす月かけハやかて方のふしと社あれ　桂琳堂月丸

かく斗月のさえ冴の中えんとうけし霜の衣こそ寒し　ミノ太田　鳥跡堂文字雄

ものゝふのまもる八幡の神垣をまもりてしれ月のさかくさ　勘定外也

冬之月

新白く月さへまさて寒すさまし大かたゆる冬の夜　川サキ　浅楽庵鳳管

冬のよの月のかけ哉うけのすさましとおもふむしろの衲　竹雨軒志津香

箒の掛ひ木しこりしに苔ワかりまる表まの月うけ　龍鱗舎松蔭

こしいきの隙も落ちもらしてよのきやく月のなかさ　水元

もしられ晴るゝあひきの山かくりまる冬の夜の月　長恐亭基頼

清か剛にかゝりに月の新さえてきつむまりの冬の表のそら　梅花亭香守

冬けさの新やかせかん障子ても昔のこえて冬の表の月　下毛小貝　赴人

隅の亭跡えしにもの光ひてそらおもふ光冬のよの月　菅廼屋沼成

ハヽうらしろ老木のまあおもしろう月のかくえのもとや冬の夜　湖条亭八乙女

冬されハ山もはしきに落葉して月の新さえいよゝさむしも　ミウラ　幽谷亭風篁

風よ小さそふての作もまつのうきむ月うけ　川サキ　四時園楽多

徒へさる庵ハかれて冬のよの月こそ友も杭うさけりけり　壷妻楼花豊

池にも天その桶にまし名おけハ中にきしめく冬の夜の月　遊水楼川船

夜をまくまもおりて上るかと思ふにむ月のかゝ女子　モリ岡　常盤廼逸茂

ひろほけるたよりも杭きやしや寒夜さゆる月の光ハ　泉石ザキ　縁亀園長樹

市よりし山路の雪もうつて安く出ころさし寒の月　小山　龍玉園常

木の芽する山家の庭のきもまき表ハ月のこほりのそくかゝりぬる　月下坊音住

四方山の杭しとなりもれハ木うけもあらし冬の夜の月　濤樹園影枝

霙めくしくれにぬれし笠山にしはしやとりてあかす月かけ
ウレシウ　千　峯

江戸のうし月のかつらの彦根子も江戸にこゝろうつして拝まん
百敷雅樂守

出かへるまきしくる芝ハうれて新さくもの引てなる冬の夜の月
チ、フノ上　濤聲園小松

冬かれていつくも月やあかるらん州の洲さへなみもむさしの
文酔舎挑嶺

霜そしらきしらく月の影をも江戸の浦にはうつす冬の夜
朝寐庵成竹

うし濤の松に竹なハうつやうて挑てとりし冬の夜の月
川コエ　福長亭柏樹

雑之月

十二臭
舟形の初花いけし床の間をてらす床の山照てかゝる三日月
イセツ　陸亭久世

十、
橋の小鷹の枝によりてけり月のかつらのよるもさしそめ
湖　濤　園

きらやかつ花橋の白き衣ハ芳をてて神ならの月
雲水樓加茂船

八、
姿月のなしまうれや千紙のきく切くらる三日の夜の月
信 牧ノモ　布川亭真常

まゆつくるまた荒られしやかな女子からうつむく三日月の簾
仝　雲迺屋竜女

松しまのしまのなしれハ旅人も月の入らなの引きてこゑん
マツト　茶碗鉢也

松風の琴にうちそふ胡弓とも弾し方の三日の月哉
ミウラ　便雅斉吉成

浅妻のきしにら波て新さしてよるくさたちも夕月の舟
弓　彦

二つわねの挿とますれて其の海月のうかれの影そよし
松葉亭青記

こきつくる月のうつはわ妹風もむら立ちもの波もいとりす
ワクタ　壷瓢樓一瓢

浦風もさそてふる夜その海月のうかれのうかへ出る
信 及　真糸庵房得

かわら茶せんゆる降ばかりいつめしよくされ三日月てふる挿形
武ヨリ井　岩藤舎長房

ふみつるの山のかけにさす影もやさ落かる三日月の挿
鄙　住

月をみるなところかはりさゝをやまおやのおやあるおくまその山　六樹園

池の魚くもつれる新く梅ちりて花かさきしける去のよの月　塵外楼

峯るゝしも照るゝもいさね色かれや月のやとる山川の家　西来居

○

入そ老と友ろて秋をくるくて去の月夜や四十くらかり　文々舎

○

幾歳まてもゝ千代の名つけよ月のさやこれあろうれまさり　白毛舎

○

角田川てゝと猫へさワれワしねあや月ま老らん　梅廼屋

月ハ代ゝおもハするゝ詠ねれと昼のあつさを忘る文の夜　立川焉馬

水やそしうつれる彼をのかり井月のさやうのちろき浅川　宝市亭

○

更ておもふつらそまねやのとめしけち月におもねる秋の小夜風　卧竜園

○

不二の根をつゝ時そ月よ雲申さる月くもてゝしあひおれ　五之浦 五徳亭

○

まつくあしそるゝ人のこゝろすゝきさき袖をつゆおし月のかよの　オシ 一田窓

○

秋の入るさにいあしてうへる人の家の山かすむかしの月　オシ 湖峯亭

○

ちり雲もあくしさやらく氷底にすむいこそこの玉の井の月　仝 湖僊堂

○

秋老を人ま申つるの侍のいくしとせけろき月のさくゝを　湖月園

ひくさのむしろま去の水とゆつる影をみて
花咲く居の大人うおくりおくるほとき分

玉川をワろゝく極の四ツ谷居下町うけそひく去の水　花咲庵

友垣古文かいつの比より旅おもひ立ちけん名所の月を
とる短冊一ひらを見せしめけれは幸ひにして
文字のまゝまかせん

あれこれと田毎の月をなかめても
一夜まちかねをさしゝなの里

初代
四谷庵
友垣古文

諸君達の玉のことはをあつめて
是あつるついでにまろも長歌文字

四谷庵月良

うつくしきことはの花をまことにあつめつゝや猶夜の
月のそれさるえにしをもゆかしのあとの杜若さく
文の林てふかき境をへだてゝかくあそびてなく郎に
玉のみちしるべつくりしてひめ涼しき月の光の上にまた新布して
いつしか松風立てひさかたの月の都女も長き衣を

をくら徒ぅ不すゝきをわれて来しむさし野の月の桂の
をちいくさ近江の上をあかれつゝ風さき冬のまて
香の化粧をすてきやとみてさあけゝる月のゝ玉の
こゝの葉こゝしきゝも
てる月のかゝ女もこゝひきつのしと
おかつもよしやもしきの袖

桂花集跋

さゝしきのこやつまゝまろぅ涙をこひては寸たけ乃
おほえや公てしき玉あやさき旅るをたふ風をと紀
のまて了今都杖のぬしいうら行きてしき
ミやひを詠まてゝしそう思ひきて葉の
玉と集て名にし月の桂乃さかとも
名つるら歎の遍昭ぅたま出るか袮といと筆
欽てなき媚しくさもとせの寸志もつきをしつ紀

梓弓急まてきくの志まり下まうくよとこそ能
まなふる者は毛赤の飛花由の里まてとひて
すゝむるは誹の派多孝き流の投さまも形く
きよ祝ふるあらたにまとひるゝ筆をと
たしらはすお所もなん

湖情園

桂花集自跋

杏園ぬし大人ハかたはよきこのひ事をわたし多毎
琵琶湖のうしろみもく糸よわ笠の大人か詠を
おひて到老ゐちへ久成尓たちし湖の網の縄津世尓
のほる心地もやする寄の迹よ瀬の言葉の陰よ
見もわは実し花のかのなをとひし實実
園のみゝぬし花今を盛の時よつひて四ッの谷

みち戸ひらけて鶯み玉の声いも之君
達の恵に於なりける于時文政十有余
二とせといふ年文月西の軒に菖蒲ぬく比
於れし名の伝やゑ元喜四谷庵のほとり

丹杖月良誌